

## 第4章 社会的養護経験者ヒアリング調査

### 1 調査概要

#### (1) 調査の目的

退所者調査、入所者調査の調査手法が web アンケートであるため、それを補完する目的で、社会的養護経験者に自立支援のあり方についてヒアリングを行った。

#### (2) 調査対象者

- ① 施設等を退所した者
- ② 里親またはファミリーホーム事業者の委託を解除された者
- ③ 児童自立生活援助の実施を解除された者

上記①～③の対象者の内、20 歳以上 35 歳以下の社会的養護経験者で、施設等からの推薦者を選定し、調査の対象とした。

#### (3) 調査方法

本人への面接調査（オンライン／オフライン）、面接時間 30 分～1 時間。

#### (4) 実施期間

2023 年 12 月 19 日～12 月 28 日

#### (5) 実施件数

9 件

#### (6) 調査項目

- ① 基本属性
- ② 措置解除後のライフストーリー
- ③ 自立支援についての意見

ヒアリングでは、措置理由や措置中の事には触れず、措置解除後のライフストーリーに焦点を当て、それらの出来事から自身の自立支援について思うこと、同じ立場の後輩へアドバイスしたいことを自立支援に対する意見としてまとめた。

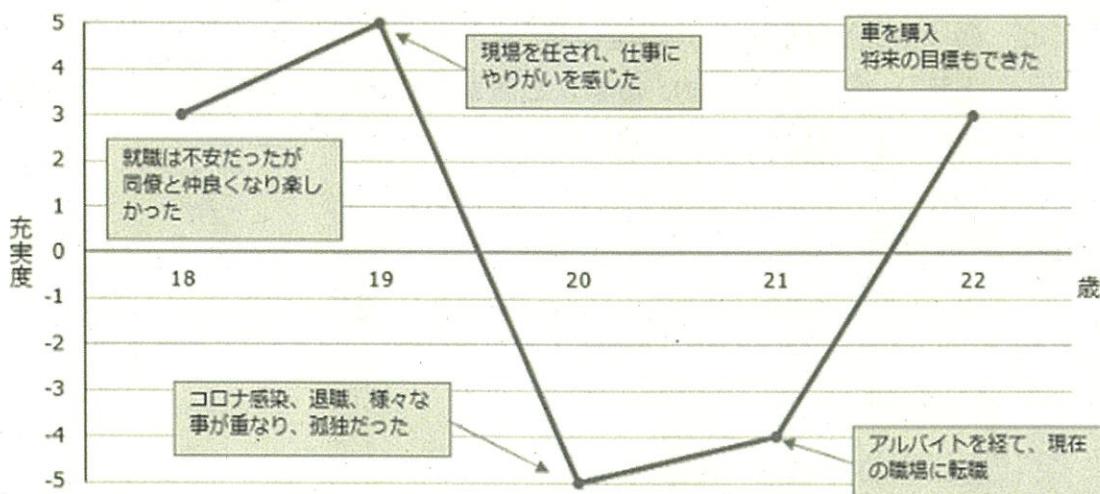
## 2 ヒアリング結果

### (1) Aさんのケース

#### ① 基本属性

性別	男性	年齢	22歳	居住地	熊本県
施設等の種類		ファミリーホーム	退所直後の進路		就職
現在の職業		社会福祉事業 職員	配偶者		なし

#### ② ライフストーリー



※ ライフストーリーのイメージ図：退所直後から現在までの年齢ごとに、充実度（-5～0～+5）を回答してもらい図表化した。以下、108ページまでの図表も同様。

#### ➤18歳

- ・高校卒業後の進路について、自分が何をしたいのかイメージがわからなかった。  
高校の先生に「しっかりした会社だ。君に向いていると思うよ。」と勧めても  
らい園芸関係の会社に就職した。
- ・当時入所していた、ファミリーホームの方が運営するスポーツチームを手伝い  
始めた。現在もコーチとして携わっており、指導は大変だが、子ども達から元  
気をもらっている。

### ➤19歳

- ・仕事は、最初は覚えることも多く、体力的にきつかった。しかし、職場の人間関係が良く、先輩からかわいがってもらえた。技術が上達するにつれて、現場を任せてもらえるようになり、信頼されているようでやりがいを感じた。

### ➤20歳

- ・成人式でコロナに感染し、緊急入院。雇用条件や職場環境も良かったが、業務上使用する資材が体質に合わなかったこともあり、入院を機に身体のことを考え退職。

### ➤21歳

- ・修養のため3か月間熊本を離れる。修養先では年齢の近い人がおらず、また、高校の頃から付き合っていた女性とも遠距離になったため別れ、非常に孤独でつらい時期だった。
- ・熊本へ戻ってからは、しばらくファミリーホームを手伝い、ファミリーホームで一緒だった先輩が勤めている教育関連施設でアルバイトを始める。前職と全く違う職種に戸惑ったが、先輩のフォローもあり、比較的早く仕事に馴染めた。

### ➤22歳

- ・一番の憧れの車種ではないが、気に入った中古車を購入し、嬉しかった。友人たちとのドライブが現在の楽しみ。将来は、保育士の資格を取りたいと思っている。

### ③自立支援についての意見

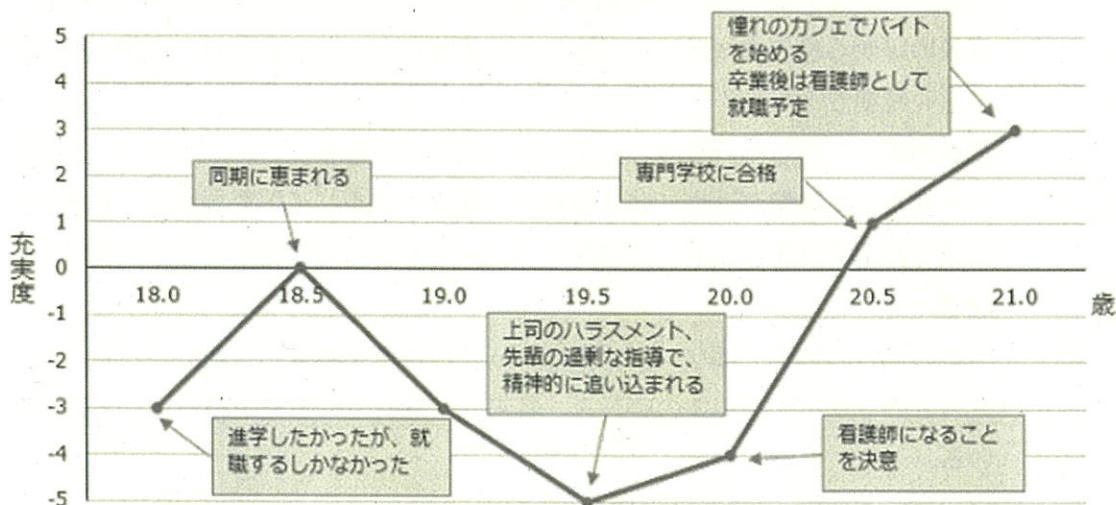
- ・措置中の頃から、相談しても相談しても不安が尽きることはなかった。相談に對しては、話を聴いてもらい、「こうすればいいよ」、「こう考えたらいいよ」と、アドバイスをもらった。相談すると気持ちは一瞬スッキリとするが、先行きが見えず、不安が消えることはなかった。
- ・措置解除後もファミリーホームの人たちとつながっているので、自分は安心できるが、里親や施設とつながりの切れた人たちは、どれだけ将来が不安だろうかと思う。退所後もつながれる場所として、在って欲しいと思う。
- ・自分たちは、将来自分の力で生きていかなければならない。もっと生活面、経済面の支援があれば、不安がなく、心に余裕ができると思う。自立前・自立後、どちらの支援も充実させてもらいたい。

## (2) Bさんのケース

### ① 基本属性

性別	女性	年齢	21歳	居住地	熊本県
施設等の種類		里親	退所直後の進路		就職
現在の職業		専門学校生	配偶者		なし

### ② ライフストーリー



#### ➤ 18歳

- ・短期大学へ進学し保育士になりたいと思っていた。進路を決める際、入所していたファミリー・ホームに進学支援ができないため就職以外の選択肢はないと言われ、国家公務員に就職。

#### ➤ 19歳

- ・職場の先輩は厳しく、上司のハラスメントもあった。食事が摂れなくなるなど、精神的に追い込まれたが、通院しながら勤務を続けた。同期に恵まれ、仲間からの励ましと助けがあって2年間勤めることができた。
- ・その間、業務を通して、看護師を目指すことを決意。職場出入りしていた医療関係者等に受験のための学習指導を受けながら、進学の費用を貯める。

### ➤ 20歳

- ・看護師の専門学校を受験し合格。経済的な余裕がないため、寮があり、学費も安いところを選んだ。
- ・できることは100%やり切りたいので、勉強にも励み成績も学年トップを維持している。

### ➤ 21歳

- ・年長ということもあり、クラスメイトに頼られている。前職の後輩指導を通して学んだことが活かされ、クラスをまとめるのが上手く、リーダー的役割を任せられることが多い。
- ・経済的に余裕がないためアルバイトを始める。通うのに少し不便だが、妥協せずに憧れのカフェでのアルバイトを選んだ。これから働くのが楽しみである。
- ・2年間しっかりと勉強し、将来は看護師として働きたい。前職で出会った男性と交際しており、お互いが励みになっている。結婚についても前向きに考えている。

### ③ 自立支援についての意見

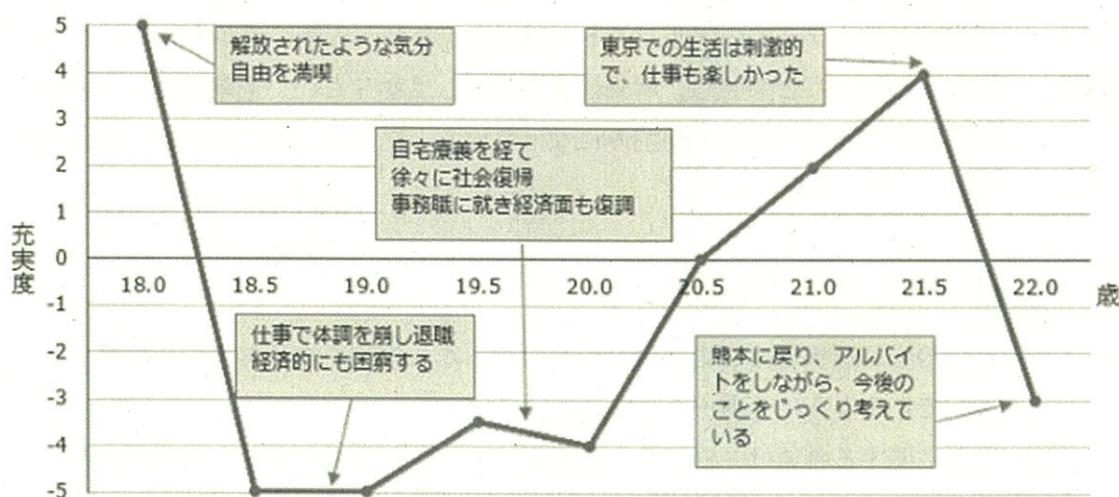
- ・将来の進路選択をはじめ、情報が少なかった。情報を広く与えて、自分で考え選択できるようにサポートしてほしい。
- ・進路に関する希望は、日頃から現場の担当者に伝えていたが、責任者には伝わっていなかった。高校での進路相談の面接には、責任者が同行したので、自分の意向が学校側に伝わらなかった。本人の希望や意見は、職員間で正しく共有してほしいと思う。自己と同じ立場の児童が表明した意思を尊重してほしいと強く願う。
- ・一旦就職した後の進学の学費支援など、再チャレンジをサポートするような経済的支援を充実させてほしいと思う。

### (3) Cさんのケース

#### ① 基本属性

性別	女性	年齢	22歳	居住地	熊本県
施設等の種類		ファミリーホーム	退所直後の進路		就職
現在の職業		飲食業アルバイト	配偶者		なし

#### ② ライフストーリー



#### ➤ 18歳～19歳

- ・高校卒業後、コールセンターに正社員として就職。精神的に過酷な業務で、身体にも影響が出て、体調を崩し退職。半年間、精神科に通院しながら自宅療養。

#### ➤ 20歳

- ・ショッピングモールの管理部門でアルバイト。正社員登用の見込みがないため転職。
- ・警備会社の事務に社員として採用される。職場の社員同士の関係が悪く、また、当時交際していた男性が就職で上京するため、退職して男性と一緒に上京。

### ➤ 21歳

- ・ 東京では、不動産会社の事務に正社員として採用される。事務職が好きでやりがいも感じていた。しかし、同居していた男性からDVを受けて、男性と別れることを決意。男性が身元保証人になっていたため、職と住まいを同時に失う。

### ➤ 22歳

- ・ 熊本に戻り、現在は飲食店でアルバイトをしている。PCを使う仕事が好きで、そのため事務職を多く経験してきた。しかし、本来はモノ・コトを創作して人を喜ばせることが好きなので、将来はクリエイティブな仕事に就きたいと、今後のキャリアについて模索している。
- ・ 東京と一緒に暮らした男性をはじめ、これまでに交際してきた男性について振り返り、自分を不幸にするような関係性を自ら選択していたことを自覚した。これからは、相手だけでなく自分の幸せも考えて、互いを大切に想い合えるような関係性を大切にしたい。

### ③ 自立支援についての意見

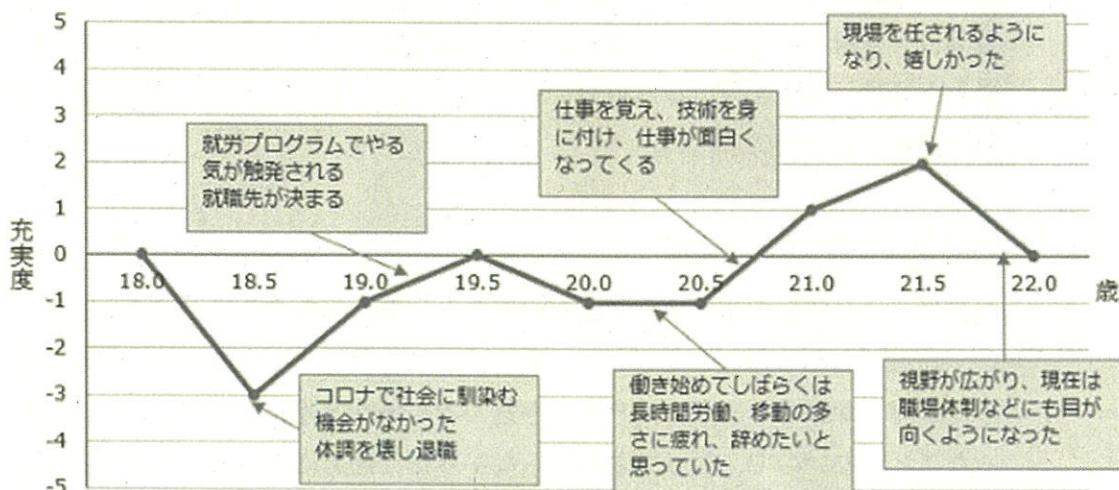
- ・ 以前は、困りごとを相談することが出来なかった。相談するほどのことでもない、これが当たり前のだろうと、困りごととすら思っていなかつたようだ。迷惑をかけてしまう、周りを巻き込んでしまうと遠慮をしていました。人に頼ったことがないので、頼り方もわからなかった。最近になって、相談することができるようになった。自分自身がそうであったように、そのように思い込んでいる児童も多いのではないかと思う。
- ・ 社会を学ぶ機会を早い段階から与えてあげて欲しい。例えば、お金の使い方も、我慢や抑制を強いても、退所してからの反動が大きく、貯めていたお金がすぐに底を突くこともある。段階を経ながらだとは思うが、小さなチャレンジが成功して自信をつけることはもちろん、失敗することも大きな学びになるので、自分自身で体感することに重きを置いてあげてほしい。
- ・ 職員の方には、一人一人と丁寧に向き合ってもらいたい。例えば、就職についても、どのような職種があるのか、調べる方法を教えて本人に調べさせ、興味ある職種に接する機会を設けるなど、早い段階からキャリアについて考える機会を提供してほしい。言葉、説明だけでは、イメージがわからない児童も多いと思うため、児童に応じた自立支援を行ってほしい。

#### (4) Dさんのケース

##### ① 基本属性

性別	男性	年齢	22歳	居住地	熊本県
施設等の種類	ファミリーホーム		退所直後の進路		就職
現在の職業	情報通信業 社員		配偶者	なし	

##### ② ライフストーリー



##### ➤ 18歳

- ・高校を卒業し、県外の自動車産業に就職、社員寮で生活。給与等の雇用条件は非常に良く、生活も豊かだった。
- ・就職して間もなく、コロナ感染者が急増し緊急事態宣言が発出された。就職したとはいえ、自宅待機が続き、業務や職場とのつながりが希薄で、社会に馴染む機会を逸したように思う。
- ・マスクを着けての作業、慣れない昼夜のシフト勤務など、労働環境は過酷だった。高校の頃は部活動が忙しくアルバイトの経験もなかったため、働くイメージができておらず、労働意欲も低かった。次第に体調を崩し、疾病手当をもらいながら6か月休職した後に、退職。

### ➤19歳

- ・ローン返済などもあり、経済的に差し迫っていたため、熊本に戻りアルバイトを2つ掛け持ちしながら、アフターケア団体に就労プログラムを紹介され、受講することにした。
- ・就労プログラムでは、講義、職場見学、OJTなどを通して、徐々に労働意識が形成された。特に、コーチングを取り入れたような講師の指導にやる気が触発された。

### ➤20歳

- ・就労プログラムを終えて、情報通信業に就職。労働時間が長く不規則で、現場間の移動も多く、働き始めてしばらくは辞めたいとばかり思っていた。
- ・徐々に働くことに慣れ、技術も身についてくると、気持ちに変化が出てきた。技術が向上し、工夫をすれば、プライベートな時間が捻出できることに気づき、仕事が面白くなってきた。

### ➤21歳

- ・現場を任せられるようになり、信頼されていると感じ、嬉しかった。

### ➤22歳

- ・仕事にも慣れ、最近は視野も広がり、自分のことだけでなく、職場の体制などにも関心が向き始めている。

### ③自立支援についての意見

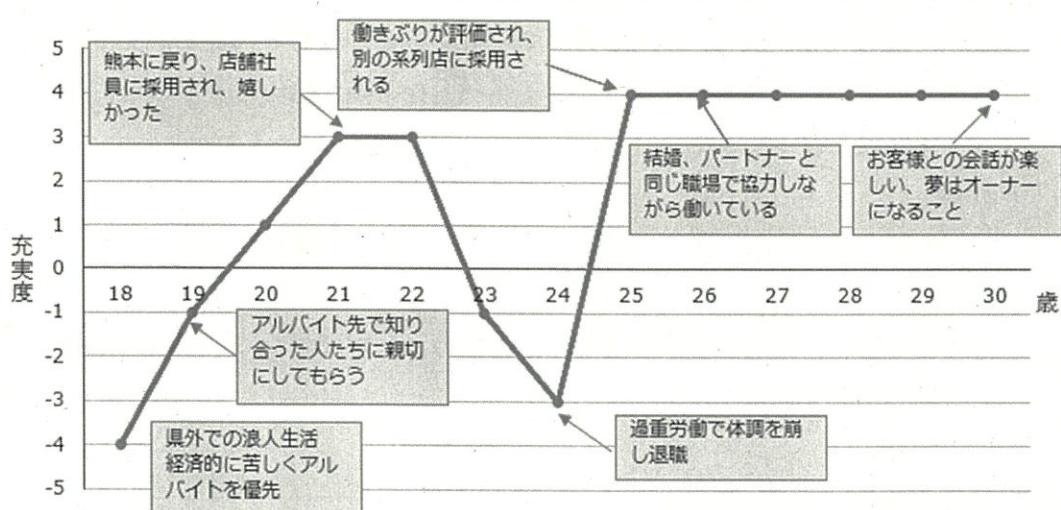
- ・退所後の経験から、入所中に社会性を養うことが必要ではないかと思っている。金銭管理や手続きの方法などのハウツー的な事も大事だが、精神面の自立支援も大事だと思う。就職する者にとっては、働くことの意義、働き続けるために必要な力、忍耐力や継続力など自立のための基礎力が重要だと思う。
- ・最近、自分の在り方について考えさせられることが多い。メタ認知、自己肯定感など、アスリートが行うようなメンタルトレーニングの手法を取り入れて、能動的に生きていく力を培うような支援プログラムが必要だと思う。
- ・社会に出て、様々な失敗から学んだことが多い。それは一般的な事だと思うが、後ろ盾のない自分たちは失敗すると痛手も大きい。なるべく失敗が小さく少なく済むように、自立前から生きる力を身に付けることができるような支援を期待したい。

## (5) Eさんのケース

### ① 基本属性

性別	男性	年齢	30歳	居住地	熊本県
施設等の種類		施設	退所直後の進路		就職
現在の職業		小売業 社員	配偶者		あり

### ② ライフストーリー



#### ➤ 18歳

- ・大学進学予定だったが経済的に折り合いがつかず、浪人し再度大学受験することになった。
- ・県外の見知らぬ土地での浪人生活は厳しかった。特に経済的に非常に苦しく、勉強よりもアルバイトの時間が大半を占めるようになり、進学は断念した。

#### ➤ 19歳

- ・生活は非常に苦しかった。退所した施設の職員に相談することも思いつかず、誰も頼らずに一人で乗り切らなければいけないと思っていた
- ・アルバイト先を同業他社に変更。身寄りがない自分に、アルバイト先の人をはじめ周囲の人たちはとても親切してくれた。現在のパートナーは、この頃アルバイト先で出会った女性。

### ➤ 20歳

- ・熊本に戻る。引き続き同じ小売業でアルバイトとして働く。

### ➤ 21歳～24歳

- ・アルバイトから店舗社員として採用される。仕事を任せられ嬉しかった。
- ・しかし、過重労働で抑鬱的になり、徐々に体調を崩しはじめる。

### ➤ 25歳

- ・体力的にも精神的にも限界を感じ、退職。
- ・同じ小売業の別系列店から、店長候補として採用したいと誘われる。接客の時の笑顔、パートタイマーをまとめ調整する力、オーナーの指示に忠実なことなどが評価され、とても嬉しかった。即戦力の正社員として採用される。

### ➤ 26歳

- ・パートナーと結婚。

### ➤ 27歳～30歳

- ・現在も同じ職場で仕事を続けている。常連のお客様と顔なじみになり、雑談する時間が楽しい。
- ・将来の夢はオーナーになること、パートナーも同じ職場で働いており、二人で夢に向かって働いている。
- ・毎年クリスマスに入所していた施設を訪問する。退所して長いので、入所者に顔見知りの児童はいないが、ケーキやチキンをプレゼントしている。施設の職員の皆さんにお世話になったので、少しでも恩返しができればという思いでいる。プレゼントを笑顔で喜んでくれる児童をみると、自分もパートナーも幸せな気持ちになる。

### ③ 自立支援についての意見

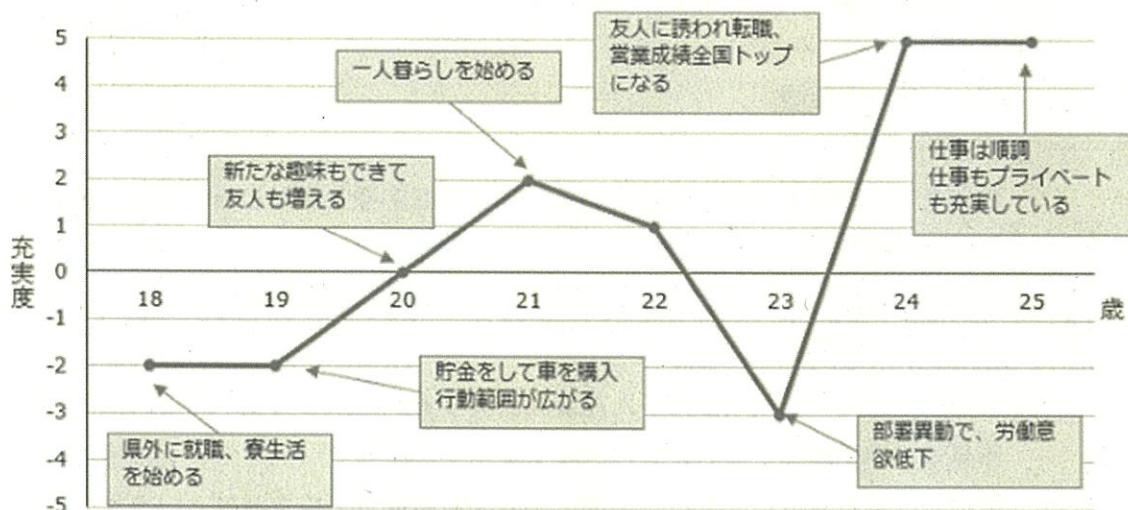
- ・自分の人生の大きな分岐点は、中学3年の時だった。将来は医療職に就きたいと希望し、勉強も頑張り成績も良かった。熊本市内の進学校に進みたかったが、当時入所していた施設から通うことは難しく、寮に入るなど施設から離れて生活しなければならなかった。施設から離れて暮らすとなると、毎週施設に戻り面接を受けなければならず、ハードルが高く断念した。施設の在る地域の高校に進学したが、希望を失い学習意欲が低下してしまい、後悔している。様々なルールはあると思うが、現在入所中の児童の皆さんが幅広い進路選択ができるように、現状に合った柔軟なルールへと絶えず見直しを行ってほしいと思う。

## (6) Fさんのケース

### ① 基本属性

性別	男性	年齢	25歳	居住地	熊本県外
施設等の種類		施設	退所直後の進路		就職
現在の職業		小売業 社員	配偶者		なし

### ② ライフストーリー



#### ➤ 18歳

- ・高校卒業後、県外の食品製造業に就職、寮生活を始める。

#### ➤ 19歳～20歳

- ・入所中から、退所者の先輩たちがローンや借金で経済的に苦労している姿を見て、お金は貯めてから使うようにしようと考えていた。寮生活ということもあって順調に貯蓄することができ、車を購入できた。

#### ➤ 21歳

- ・車を購入して、行動範囲が広がった。ドライブ、スノーボード、新たな趣味ができて職場以外の友人も増えた。

#### ➤ 22歳

- ・退寮して一人暮らしを始める。その当時付き合い始めた女性と同棲。

### ➤ 23歳

- ・部署異動で残業がなくなり、給料が激減する。仕事も単調で、モチベーションが低下する。

### ➤ 24歳

- ・知人から自動車販売の営業職をやってみないかと誘われた。性格的に営業は向いてないと思ったが、その当時の職場で働き続けても将来性がないと思い転職した。
- ・付き合っていた女性と別れ、仕事スイッチが入る。思いの外営業職が自分に向いていることがわかり、仕事が面白くなる。営業成績全国1位となった。

### ➤ 25歳

- ・仕事は順調。前職に比べ、収入も3倍になった。仕事にやりがいを感じている。
- ・施設で育ったとしても成功できると、後輩たちの憧れ、ロールモデルになりたいと思い、仕事もプライベートも充実させたいと頑張っている。

### ③ 自立支援についての意見

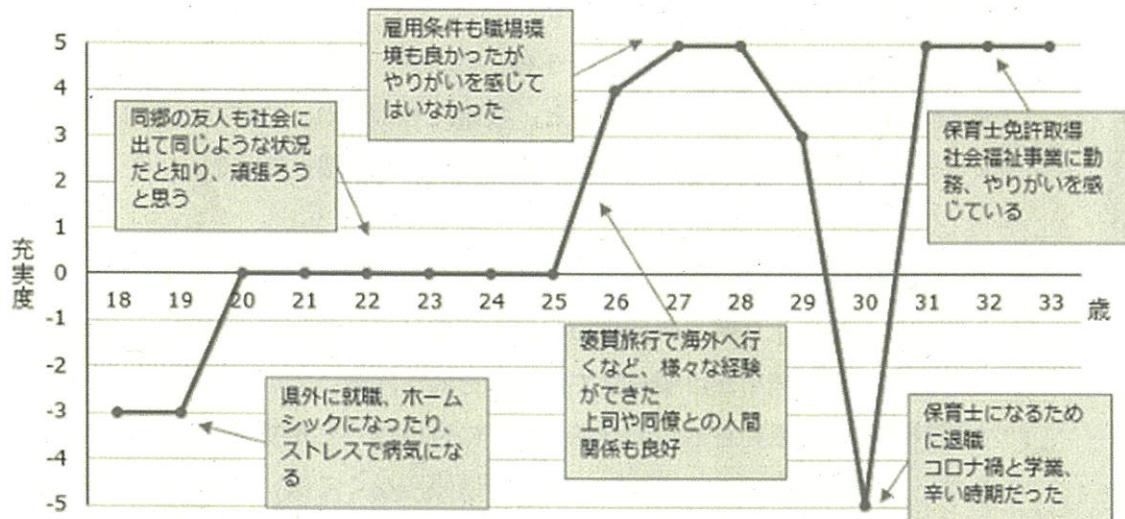
- ・入所当時、自分よりも上の世代の先輩達は荒れていて、退所後のことを考えさせられた。大谷翔平が目標を立て計画しそれを実現しているように、自分自身も高校野球の部活動を通して実現力を身に付けることができたと思う。自分たちは、一般の家庭の人と違って、自力で頑張らなくてはいけない。後輩たちは、目標を立て達成する力を入所中に培ってもらいたいと思う。また、そのような支援も必要だと思う。
- ・入所当時は、携帯電話の所持が禁止されていた。高校生になって部活動やアルバイトなど行動範囲も広がり、連絡手段がないと不便だったので、施設に要望して携帯電話の所持を許可してもらえた。管理する側は、新たな事を許可する際は不安や心配を第一に考えてしまうと思うが、ルールを設けつつ選択の範囲を広げてあげてほしいと思う。
- ・現在、心落ち着く場所は自分の住む家だが、入所当時は住んでいたホームが安心安全な場だった。自由に意見が言えて、職員の方もそれを受け止めてくれ、なるべく希望が実現するようにと動いてくれた。現在も施設に年に1回訪問するのは、当時の職員との間に信頼関係があったからだと思う。入所中の後輩たちにとっても、退所後も訪問したくなるような安心安全な場であってほしいと思う。

## (7) Gさんのケース

### ① 基本属性

性別	男性	年齢	33歳	居住地	熊本県
施設等の種類		施設	退所直後の進路		就職
現在の職業		社会福祉事業 職員	配偶者		あり

### ② ライフストーリー



#### ➤ 18歳

- ・高校卒業、県外の鉄鋼業に就職。高校時代は、部活動に専念しており、将来のことを全く考えていなかった。就職も、高校の担任に任せ、敷かれたレールに乗ったような感覚だった。

#### ➤ 19歳

- ・労働環境も、雇用条件も良く、仕事に不満はなかった。しかし、「何故ここにいるのか」とホームシックになったり、ストレスから病気になったりした。

#### ➤ 20歳～24歳

- ・成人式で帰省した時、地元の友人と話す機会があり、社会に出て皆同じような気持ちでいるのだと知り、頑張ろうと思った。

### ➤ 25歳～28歳

- ・業務で研究発表を行い、文科省や自治体から表彰され、褒賞旅行で海外へ行くなど、様々な体験ができた。上司や同僚との人間関係も良好だった。
- ・叔母が亡くなった時に、20年ぶりに実母と再会した。特に動搖することもなく、自己肯定感、自己効力感が培われたのだと心の成長を感じた。
- ・帰省の際、友人たちと集まり遊ぶのが楽しみだった。現在のパートナーとも友人たちとのBBQで出会った。

### ➤ 29歳

- ・重化学工業はエンドユーザーが見えないためか、やりがいを感じることが出来なかつた。
- ・社会福祉事業で働く友人が、楽しそうに仕事の話をするのをみて、転職することを決意。

### ➤ 30歳～31歳

- ・保育士の免許を取得するために短期大学に入学。コロナ禍で入学式もなく、人と接する事も極端に制限され辛い状況だったが、目標が明確だったので頑張って勉強することができた。

### ➤ 32歳

- ・保育士の免許を取得し、社会福祉事業の職員として就職。
- ・友人とのBBQで出会い交際していた女性と結婚。

### ➤ 33歳

- ・現在は、子どもと接している時間が楽しく、仕事にやりがいを感じている。

### ③ 自立支援についての意見

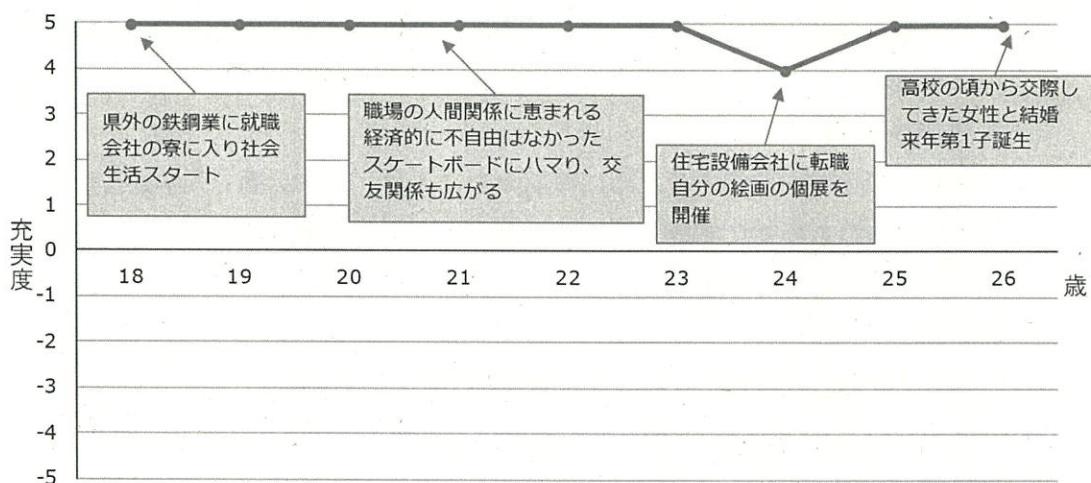
- ・自分が施設に入所していた時から制度も変わり、現在は自立支援を専門に担当する職員も配置されているが、まだ十分な人数ではないように思う。児童一人一人に時間をかけて対応してもらいたいと思う。
- ・自分自身は、入所中も退所後も、施設とあまり連絡をとっていなかった。相談することも、支援してもらうこともなかったので、つながりや関わりがあったらよかったですと、振り返って思う。入所中から信頼関係を構築し、退所後も見守っていることを折々に伝えることができれば、本人の安心感につながり、相談先として頼ってもらえるのではないかと思う。

## (8) Hさんのケース

### ① 基本属性

性別	男性	年齢	26歳	居住地	熊本県外
施設等の種類		施設	退所直後の進路		就職
現在の職業		建設業 社員	配偶者		あり

### ② ライフストーリー



#### ➤ 18歳

- ・高校卒業、県外の鉄鋼業に就職。体力的に大変な仕事だったが、給料も良く、労働環境も整備された会社だった。会社の寮に入り生活。

#### ➤ 19歳～23歳

- ・同僚ともすぐに馴染み、上司とも関係性が良く、職場の人間関係にも恵まれていたと思う。
- ・高級車を中古で購入。遊びにお金を使いすぎて貯金はできなかったが、経済的に不自由はなかった。
- ・幼いころから絵を描くのが好きだったが、趣味で絵を描き続けていた。スケートボードにハマリ、新たな趣味で交友関係も広がった。

### ➤24歳

- ・会社を辞めることになり、趣味を介した知人に住宅設備の会社を紹介され、転職。
- ・前職を辞めて、本気でやりたいことができるようになった。仕事以外の時間も多く確保できるようになり、これまで描き溜めてきた絵画で個展を開催した。

### ➤25歳

- ・現在の住宅設備の仕事は、経験を積み、技術を習得すれば独立でき、その分収入も増える。自分の会社を設立することを目標に、仕事も頑張っている。

### ➤26歳

- ・高校時代から交際してきた女性と結婚。来年には第一子が生まれる。家庭や子どものためにも、趣味のためにも稼ぎたいと思っている。

### ③自立支援についての意見

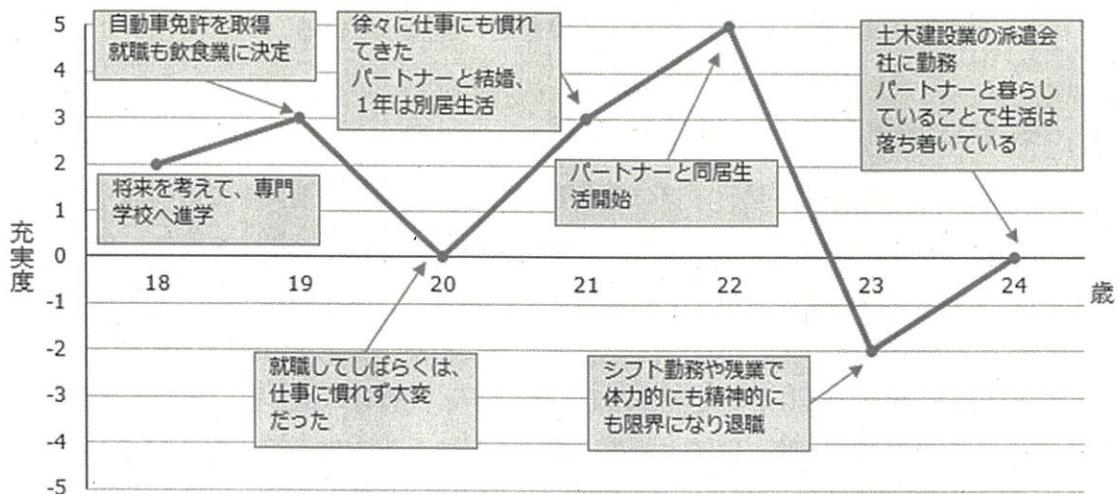
- ・自分の信条は、ポジティブに生きること。家庭環境が悪い中で育つよりも、施設に預けられたことは、自分の人生にとってプラスだと思っている。施設での生活を特別な事とは思っていない。実の親よりも施設の職員さん達を自分の親だとも思っている。ポジティブに考えることで、人生を力強く生きることができる。現在入所している児童にも、ポジティブ思考の良さを伝えたいと思う。
- ・最近の児童は、強く注意される、叱責されるなどの機会が少なくなっていると聞く。ある程度の厳しさ、対人関係での多少の軋轢は、社会に出てから役に立つ。恐れずに経験させてあげること、その経験が学びとなるよう指導することが大事だと思う。
- ・陰湿ないじめもあった。職員さんの耳に入っていない事も沢山あるのではないかと経験上思う。最近は、先輩達との交流も少なく、上下関係も緩いようだ。年長者から学び教わることは多く、先行指標として自分のことを考えることにもつながる。健全な関係、特に縦のつながりを作ってあげることが必要ではないかと思う。

## (9) Iさんのケース

### ① 基本属性

性別	男性	年齢	24歳	居住地	熊本県外
施設等の種類		里親	退所直後の進路		就職
現在の職業		建設業 派遣社員	配偶者		あり

### ② ライフストーリー



#### ➤ 18歳

- ・高校卒業と同時に実家に戻り、専門学校に進学。高卒よりも専門学校卒の方が収入面や就職も有利と考え、進学した。
- ・実家からのバス通学は時間がかかり、職場実習も面倒で、学業を維持するのは大変だった。コンビニでアルバイトをして小遣いにあてていた。

#### ➤ 19歳

- ・車の免許を取得し、親から車を譲り受け、行動範囲も広くなった。
- ・就職活動も面倒だったが、1社目で合格できたのでその会社に就職することにした。内定者の研修で現在のパートナーと出会う。

### ➤20歳

- ・卒業して、県外の飲食業に就職。研修後、南九州の店舗で勤務。就職してしばらくは、働くことに慣れるのが大変だった。
- ・賃貸住宅で一人暮らしをしていたが、住宅手当もあり経済的に困ることはなかった。

### ➤21歳～22歳

- ・南九州を中心に転勤などもあったが、仕事にも徐々に慣れていった。
- ・研修で出会ったパートナーと結婚。勤務地が異なったので、1年ほどは別居生活を送った。

### ➤23歳

- ・勤めていた飲食業は、シフト勤務で残業も多く、体力的にも精神的にもきつかった。有給休暇を消化して退職。

### ➤24歳

- ・現在は、土木建設業の派遣社員として働いている。転職を繰り返すのは将来的にも良くないと思い、現在の会社に3年は勤めるつもりでいる。
- ・パートナーと暮らしていることで生活は落ち着いている。

### ③自立支援についての意見

- ・親元や里親などから早く独立して、不自由な生活を脱したかった。自分にとっては、自立することが何よりも重要だった。制度やルールを守りながら、その範囲内で自由に生きることが心地よい。
- ・進路の面では、学校の先生に感謝している。自分のことを考え、熱心に指導してくれた。最終的には、自分の選択なのだが、選択した進路に納得している。
- ・早くから自立する力、人を頼る力を養うことが必要だと思う。後輩たちにも、そのような機会を与えてもらいたい。

